

5月18 - 22 日週の豪ドル円レビュー

May 25, 2009

70 円台前半での底堅い地合い維持

High : 74.91 円 Low : 70.53 円
 Close : 74.18 円

今週の豪ドルは対ドル・対円ともに堅調。スティーブンス豪準備銀行 (RBA) 総裁が 19 日に、「豪州の金利は歴史的な低水準にある」との認識を示したことで、6 月 2 日に開催される次回の金融政策決定理事会でも政策金利が据え置かれる公算が高まったこと、米国の格付け見直し引き下げ懸念が高まったことにより、ドル安が進んだことなどが材料視された。

5/18 (月) 73.75 円

大幅上昇。東京時間の序盤こそ新型インフルエンザの国内蔓延を嫌気した株安の動きに連れて 70 円半ばまで下押したが、その後は堅調な欧州・米株を背景に円売りが優勢に。豪ドル円も引けにかけて 74 円手前まで大幅に上昇した。

5/19 (火) 74.34 円

小幅続伸。欧州時間序盤には投信系や本邦短期筋からの買いがクロス円に入ったため、上昇。豪ドル円も欧州時間に 75 円手前まで上昇する場面も見られた。

5/20 (水) 73.54 円

小幅反落。東京時間から下値を窺う地合いとなり、73 円半ばまで下押し。その後は欧州時間にかけて反発するも、NY 時間に成長見通しが下方修正された FOMC 議事録が公表されると、ドル円が急落。豪ドル円も 73.31 円まで連れ安となった。

5/21 (木) 73.48 円

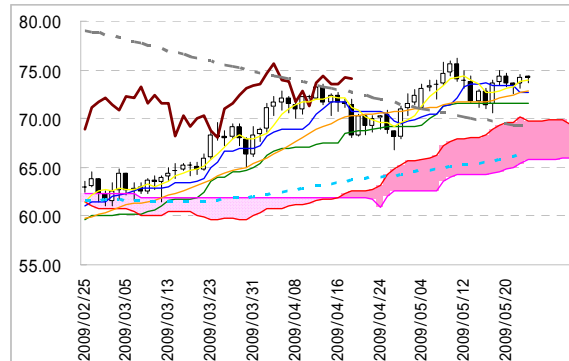
もみ合い。欧州時間には一時 72 円台まで下落するも、下押しはそこまで。その後は米国の格付け引き下げ懸念などから上下に振られながらも、73 円を中心とするレンジ内で終日推移した。

5/22 (金) 74.18 円

小幅反発。原油相場が底堅い動きとなったこともあり、資源国通貨が総じて堅調に。豪ドル円も例外ではなく、74 円半ばまで上昇する場面も見られた。

月日	High	Low
5/18 (月)	73.92 円	70.53 円
5/19 (火)	74.91 円	73.36 円
5/20 (水)	74.64 円	73.31 円
5/21 (木)	73.69 円	72.51 円
5/22 (金)	74.54 円	73.11 円

豪ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

- 76.18 (5月11日高値 = 年初来高値)
- 74.91 (5月19日高値)
- = 先週末の NY クローズ 74.18 円 =
- 71.52 (日足一目均衡表・基準線)
- 70.53 (5月18日安値)

豪州の重要指標結果

- 5/19 (火) [予想] (前回)
- スティーブンス豪準備銀行総裁、講演
 「豪州の金利は歴史的な低水準にある」
 RBA 金融政策決定理事会議事録、公表 (5月5日分)
 追加利下げの必要性に対して議論されていたことが明らかに
- 5/20 (水) [予想] (前回)
- 5 月ウエストパック消費者信頼感指数 [-4.3%]
 (+8.3%)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 70.50 - 76.50 円

市場では豪ドル/ドルが 0.8 ドルまで上昇を続けるとの意見が大勢を占め始めており、主な上値抑制ポイントが控えていない現状を考慮すると、今週にも同水準を窺う公算が高いだろう。一方、対円に関しては豪ドルの上昇がドル円の下落によって相殺されることも、テクニカル的にも 76 円半ばで推移している 52 週移動平均線が上値をしっかりと抑えており、11 日に示現した年初来高値 (76.18 円) を大幅に上回る可能性は限定的と見ておきたい。